**校長　寳田　康彦**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 「徳性・知能・体力」ともにすぐれ、誠実、明朗で友愛と気力に満ちた人物の育成に努めるとともに、生徒一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、地域に貢献する人材を育て、地域に信頼される学校づくりをめざす。そのために、①「確かな学力」への取組みを通して、学習習慣の定着を図るとともに、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する②「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する③「キャリア教育」を全ての教育活動の中で展開することを通して、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する　 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　確かな学力の育成と進路実現の支援（１）授業力の向上と確かな学力の育成ア　授業に集中する環境づくりを進める。校内授業見学の充実を図ることにより、教員の授業力を高めるイ　主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進めるウ　大学入学者選抜改革を踏まえ、社会で自立するために必要な基礎学力を育成するとともに、生徒の学習習慣の確立を図る※学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、70％（30年度）⇒77％（2021年度）※「学校経営推進費」による『進路学習室』の機能を更に生かし、同生徒項目「視聴覚機器等の活用」を、62％（30年度）⇒70％（2021年度）（２）カテゴリー制の充実ア　「人文ステップアップコース委員会（ＪＳＩ）」が中心となり、ステップアップコースの一層の充実とともに、カテゴリー制全体の充実を図るイ　進路意識の醸成と連動したカテゴリー選択指導を充実させる※ステップアップコースの大学進学希望者中、より自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の割合を、37％（30年度）⇒45％（2021年度）（３）キャリア教育の推進ア　生徒の希望する進路の実現に向け、進路指導と人権教育をコラボレートした「総合的な学習（探究）の時間」を軸に、学年ごとの目標の具体化と検証を進め、３年間を見通した全ての教育活動の中でキャリア教育を展開するイ　カリキュラムの充実・改善と生徒への支援のより一層の充実を図るとともに、生徒の進路実現に向け『進路学習室』の機能をより一層活用する。※学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、76％（30年度）⇒85％（2021年度）※学校教育自己診断教職員項目の進路「きめ細かい指導」・「組織連携」関係項目の肯定的評価平均を65％（30年度）⇒75％（2021年度）２　安全で安心な魅力ある学校づくりの推進（１）部活動、生徒会や各種行事等の自治活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導ア　部活動への加入を一層促進するとともに、生徒会主催のボランティア活動の充実を図るなど、生徒の主体性や協調性を育むイ　遅刻を減らす取組み、着実な清掃活動の推進により、自分たちで規律ある生活を送り学校をよくし後輩に伝えていく意識を醸成する※１、２年生の部活動加入率60％（30年度）⇒65％（2021年度）。登校遅刻数760（30年度）⇒660以下（2021年度）学校教育自己診断生徒項目「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、57％（30年度）⇒67％（2021年度）生活指導に関する項目の肯定的評価を、63％（30年度）⇒73％（2021年度）（２）教育相談体制の充実ア　生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり、環境整備の充実を図るイ　様々な事象に対する円滑かつ確実な対応ができるよう、校内組織に加え、スクールカウンセラーや学校医等、各関係機関との連携を生かす※学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、72％（30年度）⇒80％（2021年度）※学校教育自己診断保護者項目「気軽に相談できる」の肯定的評価平均を、64％（30年度）⇒74％（2021年度）３　学校の組織力向上をめざした取組み（１）学校運営改善に向けた方策の具現化　　ア　生徒情報を中心とする学校情報の共有と、学年・分掌等の組織間での円滑・有機的な連携を図る　　イ　学校運営改善に向け、「将来構想委員会」及び「４つのチーム」を軸に、組織・教員間で連携・協働し各アクションプランを推進する　　　　　　　　（「４つのチーム」：①学力・授業力向上 ②学校行事・部活動活性化 ③交流活動 ④広報・学校説明会）　　ウ　各種会議等の在り方について改善を図るとともに、「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理を推進する※学校教育自己診断教職員項目の診断「組織連携・運営改善」に関する項目の肯定的評価平均を、58％（30年度）⇒68％（2021年度）（２）経験年数の少ない教員のＯＪＴの推進ア　若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「伝え合い・学び合い」の取組みをすすめ世代継承の活性化を図る※学校教育自己診断教職員項目の診断「経験の少ない教職員育成の体制」に関する項目の肯定的評価を、43％（30年度）⇒55％（2021年度）（３）中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化ア　部活動や体育祭、文化祭での交流等による中高・地域連携、大学からの学生派遣（学習支援）や交流活動等による高大連携を一層推進するイ　ホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取組みについての発信を強化する※学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」の肯定的評価を、51％（30年度）⇒60％（2021年度）同保護者・生徒両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、生徒28％、保護者31％（30年度）⇒ともに35％以上（2021年度） |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成31年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標（H30⇒H31）※学校教育自己診断結果：例【生徒】 | 自己評価 |
| １　確かな学力の育成と進路実現の支援 | （１）授業力の向上と確かな学力の育成を図るア　授業に集中する環境づくりイ　主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりウ　生徒の基礎学力の育成、学習習慣の確立（２）カテゴリー制を充実させるア　ステップアップコースの検証と　カテゴリー制全体の充実（３）キャリア教育を充実させるア　年間目標の具体化と検証イ　カリキュラムの充実・改善ウ　「学校経営推進費」による『進路学習室』の更なる活用 | （１）授業規律の確立に向け、共通理解のもと、統一した指導を徹底して行う。ア　生徒との良好なコミュニケーション・「授業力向上チーム」による授業見学の活性化、優れた取組み（GP）の共有化、環境整備イ　教科内研修等、教員間の研鑽を図る。・視聴覚機器、図書館を活用した授業の実践ウ　『自己探究』の充実、評価を円滑に進める。・学習支援ツールを活用した、生徒の基礎学力の向上、学習習慣の確立（２）学力の定着度や伸び等、データをもとに的確なアドバイスを計画的・継続的に行う。ア　模試、学力生活実態調査の有効活用・理系進学対応の強化・ＪＳＩの効果的な運用（３）ア　３年間を見通した系統的・体系的な進路指導計画の具体化と共有化・生徒が身近な存在をモデルに進路を考えることができる機会の更なる充実イ　「総合的な学習（探究）の時間」や「道徳教育」等を含む新カリキュラムの具体化ウ　進学講習、資格取得に向けた講習や面接指導等の更なる充実・英語、情報関連検定への積極的な取組推進・プレゼン等、授業での更なる活用 | （１）アイ　・【生徒】項目「学習・授業関係」の肯定的評価の平均（70%⇒75%）・【生徒】「他の先生が授業を見る」（56%⇒60%）イ　【教職員】「検討する機会」（57%⇒60%）【生徒】「視聴覚機器を使う授業」（62%⇒65%）【教職員】「図書館活用」（50%⇒55%）ウ　円滑実施、効果について検証（２）新指標の明確化（１学期中）ア　大学進学で一般入試まで努力する生徒（37%⇒40%）・通信の発行（最低各学期１回）（３）ア　【生徒】【保護者】進路関係項目（生：78%⇒80%以上、保：75%⇒78%以上）・機会づくりと評価、改善状況イウ　運用と具体化、活用状況ウ　（３）【教職員】進路「きめ細やかな指導」・「組織連携」関係項目平均（65%⇒70%）・「英検」受検者数２割up・準２級以上合格率（150・25%⇒180・30%）、「情報」受検者数２割up・合格率（32・75%⇒38・80%） |  |
| ２　安全で安心な魅力ある学校づくりの推進 | （１）部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活の確立を図るア　部活動、生徒会活動の活性化イ　遅刻指導、清掃活動推進ウ　制服指導の充実（２）教育相談体制を充実させるア　情報の共有や体制づくり、環境整備や研修の充実イ　「いじめ防止」をはじめとする人権教育の充実（３）交通安全指導、防災教育を充実させる | （１）指導方針・内容の共通理解の徹底と共に、キャンペーン等、指導上の工夫を一層図る。・生徒の「理解と納得」を図る説明と指導ア　部活動加入の促進の更なる強化・勧誘活動、部活動の発信力向上（学校ＨＰ等）・図書委員活動の更なる充実・生徒会執行部が主催、活躍する行事の充実・達成感や自己肯定感を味わえる活動の実現イ　登校遅刻の更なる減少・清掃の徹底強化、保健委員活動の活性化ウ　制服指導に学校をあげて取り組む。（２）教職員の意識向上と体制強化を図る。ア　早期発見・対応に向けて指摘し合える体制づくり、「生徒支援委員会」の効果的運用・教育相談室の活用等、教育相談機能の充実・人権感覚に富んだ生徒への言葉かけ・対応イ　「いじめ防止（対応）委員会」と各種会議、外部の関係機関との効果的な連携・いじめアンケート等の活用と対応の充実（３）関係機関との連携による交通安全指導、防災避難訓練等の更なる充実を図る。 | （１）ア　部活動加入率（60％⇒63%）、１年は65％以上・ＨＰの定期更新・図書委員、生徒会活動の具現化（新規又は改善２件以上）・【生徒】「生徒会活動は活発」（57%⇒62%）イ　年間登校遅刻700以下（H30：760）【教職員】清掃関係項目（25%⇒50%）ウ　統一した指導の着実な実施（２）ア　「相談・支援関係」項目（【生徒】75%以上、【教職員】66 %⇒70%）、【保護者】「気軽に先生に相談できる」（64%⇒70%）イ　【生徒】「いじめ等への対応」（72%⇒75%）【生徒・保護者】｢人権尊重｣平均（71%⇒75%以上）（３）【生徒・保護者】｢防災関係｣(80%・85%⇒83%・85%以上) |  |
| ３　学校の組織力向上をめざした取組み | （１）学校運営改善を実現するア　学校情報の共有と、組織間での円滑・有機的な連携の充実イ　学校運営改善に向けたアクションプランの推進ウ　「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理（２）経験年数の少ない教員へのＯＪＴを推進するア　「さみどり塾」、研究授業の定例化イ　世代継承の取組み（３）中高・高大・地域・ＰＴＡ連携の推進と広報活動の強化を図るア　高大連携の充実イ　中高・地域連携の充実ウ　ホームページの更新、発信強化 | （１）ア・的確な「報・連・相・確認」の推進・各方針の学年、教科、分掌・委員会間での統一、全体での共通理解の徹底、協力と実践・分掌等の業務、チーム分担の明確化・個人情報保護・管理のより一層の徹底　特に、ガイドラインやルール理解の徹底・コンプライアンスに係る教職員の意識向上イ　「将来構想委員会」及び「４つのチーム」を軸にアクションプランを組織的に推進・改善に向けた前向きな提言の反映・採用ウ　職員会議の在り方、各種会議の精選、ペーパーレス化を含め、会議の効率化を図る・統合ICTの活用、教材、案内文書等の共有・時間外在校時間が多い教職員への個別指導（２）ア　授業力・指導力・関係調整力を育成し、伸ばす（相互授業見学、ＯＪＴの活性化）・「さみどり塾」等、校内研修の更なる充実イ　全教職員が「学ぶこと、伝えること」いずれかを目標化する。（３）市内小中学校、地域との連携、ＰＴＡの参画により、行事等での交流を充実させる・オープンキャンパスの充実、参加者の増大・広報ビデオや新リーフレット等の更新ア　高大連携の推進を図る。（大学生の学習支援・インターンシップ受入、留学生との交流、研修依頼等）イ　中高・地域連携の推進を図る。（インターンシップ受入、授業見学、部活動交流等）ウ　学校情報の発信強化を図る。・ホームページのコンテンツ充実、更新の定着・生徒・保護者への周知の徹底、趣旨・目的、内容の明確化 | （１）ア　取組状況により検証【教職員】「学校組織」（54%⇒60%）【保護者・教職員】「個人情報の管理」（80%・71%⇒85%・80%）イ　進捗・達成状況により評価・「学校経営計画」等に反映アイウ　【教職員】「組織連携・運営改善」平均（58%⇒65%）ウ　【教職員】「会議の有効機能」（32%⇒45%）・活用状況により検証・学校安全衛生委員会、個別指導を毎月実施（２）アイ　【教職員】「経験少ない教職員を育成する体制」（43%⇒50%以上）イ　自己申告票で全員が目標化、達成状況で80%以上（３）アイ　新規取組又は改善を少なくとも新たに２つは行う・学校説明会等への参加者数（573⇒650以上）・【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会」（51%⇒55%）ウ　【生徒・保護者】「ＨＰをよく見る」（28%・31%⇒33%・35%）・「校長ブログ」年間掲載数（121⇒150） |  |